高田教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌

御遠忌通信

第 7 号

発行日　2014年5月15日
責任者　森田　成美
編　集　御遠忌広報実行委員会
連絡先　真宗大谷派高田教務所
上越市寺町2-24-4
TEL: 025-524-3913
FAX: 025-524-2645

御遠忌テーマ　**私はどこで生きているのか　～たずねよう真宗の教えに～**

教化体制改革実行委員会に課せられていること

教化体制改革実行委員会委員長　**鷲嶺　紀文**

２０１８年にお迎えする高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要の記念事業の一つとして「教区教化体制の見直し」が挙げられております。この仕事は他の四つの記念事業と異なり、いわばソフト面を含み目に見えにくいものがあります。しかし、今回の御遠忌記念事業として取り上げた意味は大きいと考えております。それは昨今の教化行事の参加状況をみるにつけ、どこか緊迫感にかけ、これでいいのかという思いを強くするからです。

この度、本事業を進めるにあたり御遠忌推進委員会に高田教区教化体制改革実行委員会を設置し、昨年の9月以来4回の協議を重ねてきたところであります。その真向かうところは、真宗門徒が育つ環境をつくることであり、そのために「人の誕生」を期す取り組みと、聞法者をはぐくむ「場の創造」を推進する教化体制を構築することであります。これまで、教化の実をあげることを妨げている問題は何か、問題解決のために何をしなければならないのかを探りつつ、当面の課題として間もなく任期満了となる教区教化委員会組織（次期は第12次）と２０１４年度の教化事業の策定を進めてきました。そのなかで、これまでの教化委員選出のあり方を見直し、広く候補者を推薦いただく方途を開くなどのルールづくりにも努めてきたところです。教区御遠忌を迎えるまでの息の長い取り組みがこれからも続くわけですが、改革の言葉に値する成果を挙げるべく歩み続けたいと思っています。昨年11月の第２回実行委員会で、今後検討したい事柄として問題提起した項目（委員長私案）は次の10点であります。

（一）教化組織に関すること
（二）組を基軸とした教化体制に関すること
（三）教化委員の役割と責任に関すること
（四）教化の主体たる住職の自覚と姿勢に関すること
（五）駐在教導の任務に関すること
（六）教化事業の担い手養成に関すること
（七）教化事業の精選と充実に関すること
（八）教化施設の活用に関すること
（九）同朋会議の定例化に関すること
（十）二別院一支院のあり方と将来展望に関すること

なお、次回には第7回教勢調査（２０１２年実施・２０１３年12月9日教区において報告学習会開催）から見る教区の現況と「住職の姿勢・意識」の改革にどうアプローチするかを取り上げ協議する予定にしております。

【第十一次教化委員会組織】

寺族研修部門
秋安居、教学研修会、伝道研修会
声明作法講習会、得度研修会

門徒研修部門
門徒会員研修会、推進員養成講座

社会教化研修部門
視聴覚伝道、社会問題研修会
差別問題研修会、靖国問題研修会
男女平等参画を考える研修会

青少年教化部門
青少年キャンプ、青少年連絡協議会

真宗（高田別院）における山門の意味について

真宗大谷派宗務所内事部　山口昭彦

寺院においては、境内の入口に山門（三門）と称される門が建てられることが見られます。飛鳥時代に朝鮮半島の百済から佛教が伝来して、寺院の伽藍配置も高句麗・百済・新羅の三国の影響を受け、さまざまな様式の寺院が建立されました。

伽藍配置としては、南大門、中門、塔、金堂、講堂が一直線に並ぶ「四天王寺式」や塔、金堂が左右に並ぶ「法隆寺式」などが代表的です。その中で伽藍（境内）の入口には必ず南大門が設けられました。鎌倉時代に入ると禅宗の影響を受けて、七堂伽藍の一つとして山門（三門）という名称で門が建てられるようになりました。

真宗本廟（東本願寺）において一般の山門にあたる門は、御影堂正面に建てられていることから御影堂門といい、大門とも称されています。『本願寺誌要』には、大門の注釈として「或いはいふ、禅家に三門といひ、教家に大門といふ、東大寺南大門の如しと。一説に大門とは、浄土論に所謂大義門の略なりと。」（大谷家本願寺誌要編輯局、一九一一年）と説明されています。

禅宗の伽藍では、三門と称し三つの門扉が設けられることが多いのですが、三門とは、「三解脱門」の略であると説明されています。三解脱とは、空・無相・無願をいいます。

「教家」とは、座禅によって悟りを開くことを目指す「禅家」に対して、経典を拠りどころとして言い表された教えに基づく宗門をいい、浄土真宗も教家になります。

『本願寺誌要』では、大義門の出典を『浄土論』と記されていますが正しくは『浄土論註』です。論註には、「門とは大義に通ずる門なり。大義とは大乗の所以なり。人、城に造りて門を得れば、即ち入るがごとし。若し人安楽に生ずることを得れば、是則ち大乗を成就する門なり。」と述べられています。

真宗本廟の御影堂門（大門）の楼上には、釈迦如来・弥勒菩薩・阿難尊者の三尊が安置されています。『大無量寿経』の会座が表現されているのです。『大無量寿経』は、宗祖親鸞聖人が真実の教と顕かにされました。大門は、聞法の根本道場に出入りするための門でもあります。

すなわち真宗本廟において、御影堂門（大門）は、大乗の至極としての浄土真実の教に参入する象徴としての意味があるといえましょう。

高田別院の山門も大門と称され、一八二七（文政十）年に建立されました。彫刻なども当時の手仕事の技術の粋が集められた壮麗な門です。別院は、宗祖親鸞聖人によって真実の教『大無量寿経』に基づき開顕された真宗の聞法道場です。そして宗祖真影の御座所である真宗本廟の別院としての高田別院の大門は、本廟の大門と同じように聞法の道場である本堂に通入する門、大乗佛教が成就される門としての意味があると思います。

このように高田別院山門は、建築史的に見ても意義があるだけではなく、幾多の苦難を乗り越えて別院の護持に尽力された名も無き多くの先人たちの歴史的遺産であると同時に、真実のみ教に参入する門、聞法の道場の大門として、後世に伝えていく必要性があるのではないでしょうか。

高田別院山門

御遠忌に向けて

「上越一円の文化財を代表する価値ある東本願寺別院の山門」

第11組専敬寺門徒　**金井　孝司**

本年は、高田開府四〇〇年の年に当たり、いたる所で、その歴史を寿ぐ幟を目にし、市民の声を耳にするこの頃である。

また、この記念すべき年に、建立（文政十年）以来一八七年の長き間、風雪や震災に耐えて、威容を誇ってきた「別院大門」に目を向けてみたい。

まず、この山門は、様式からみて、総欅の単層入母屋造三戸門で文政十年（一八二七年）第二十代達如上人の願で建立され、「別院大門」の名で親しまれ、上越一円に残存する山門では唯一、最も荘厳な門であるといわれている。

以下、その文化財の価値あるところを中心に上越市高田図書館の資料をもとにまとめたものを紹介したい。

【建築様式の概要】

① **建物の大きさ**…軒高　六・六m、棟高　一二・六m、軒の長さ　一三・四四m、規模　六六・〇坪

② **様式**…単層入母屋造三戸門（たんそういりもやづくりさんこもん）

③ **屋根**…桟瓦葺（さんかわらぶき）もとは板瓦葺

④ **柱**…円柱一二本　、太さ　約一尺三寸（約四〇㎝）

⑤ **扉**…桟唐戸（さんからと）かん甲（かんこう）入八双（いりはっそう）を付けて、蝶番でつるしたもの

⑥ **天井**…格天井（ごうてんじょう）

⑦ **束（つか）**…大瓶束（たいへいづか）結綿（ゆいわた）

⑧ **蟇股（かえるまた）**…全くの装飾彫刻で実肘木（さねひじき）である

⑨ **斗栱（ときょう）**…出組（でくみ）で三斗（みっと）または双斗（ふたっと）をもつ

⑩ **懸魚（げぎょ）**…かぶら型

【装飾の概要】

① 棟の両端に獅子口。ただし、経の巻は破損

② 貫（ぬき）、虹梁（こうりょう）の木鼻やかえる股、尾垂木などには、いずれも動植物の彫刻と色彩を施し（現在は痕跡だけ）、柱上及び軒周りは斗栱（ときょう）で、隙間なくうめ、唐獅子、竜などの彫刻や透刻諸所に配している。

③ 中央扉の両側の小脇破目（こわきはめ）は、「のぼり竜」（南側）と「くだり竜」（北側）を添え、（かえる股）には、十二支をあしらったものがある。

④ 背面の南北側には張良と黄石公の中国の故事からとった二枚四面の彫刻がある。ただ、彫師については、明らかではない。

⑤ 色彩…全体に施したとは見られない。

⑥ 用材…欅が多い。

【故人の偉大さと郷土の誇りを新たに】

今から八年前の第二回の寺町サミットの役員として参加した時のことを思い出す。案内係として県外からの参加者を案内して回った時、この別院大門の文化財の素晴らしさを知った。同時に、この財産を多くの地域の皆様方にお知らせするのが、地元民の務めであると感じるようになった。

今年は高田開府四〇〇年でもあり、この大門の修復計画を耳にしたのですが、ぜひ実現を図って頂ければと願う一人である。

その中の一つの案として、「別院大門の案内板」の作成を考えて頂けないかという提案である。大きさは畳一枚分位の大きさで、資料として前掲したもので、大門の特徴を表す項目である。

その案内板の前に、長机（一脚）と椅子（三～四脚位）を置いて頂ければ、休憩と対話の場となって、同好の輪が広がるのではないでしょうか。

委員会・部会等進捗状況

【行事広報部会（第10回２０１４年２月14日）】

（１）御遠忌ポスターについて
採用するポスター一点が決定。発行は２０１４年６月頃とし、全寺院配布とする。

（２）真宗落語について
高田別院及び新井別院においては、２０１７年報恩講中に開催する。

【教化体制改革実行委員会（第３回２０１４年１月16日、第４回３月20日）】
記念事業の一つである、教区教化体制の見直しについて、第３回及び第４回の委員会が開催された。

【記念事業部会】
御遠忌記念出版物『上越真宗教団のあゆみ』再版事業について
２０１４年２月27日に編集会義が行われ、Ｂ５サイズ58ページでの発行が決定。４月に全寺院へ無償配布された。また、教区出版物として、５００円にて有償頒布する。

＊＊　完納御礼　＊＊

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌懇志金を御進納いただき誠にありがとうございます。

ここに、御完納いただきました御寺院名を御披露し、御礼にかえさせていただきます。

第１組　正覺寺
第２組　興順寺　陽嚴寺
第３組　正光寺
第４組　淨善寺
第５組　流泉寺
第７組　康源寺　慈雲寺
第８組　延壽寺　西養寺
第11組　鞍馬寺　京德寺
第13組　明通寺　養法寺

（２０１４年１月１日～２０１４年４月30日）

以上14ヵ寺

なお、右記を含め２０１４年４月30日現在の御完納寺院は78ヵ寺でございます。またそれ以外にも94ヵ寺から懇志金を御進納いただいており、収納総額は７４，９９１，５００円（御依頼額の３０．０％）です。

ひと休み

寒い冬が終わり、暖かな春の陽気になってきました。今年の冬は、例年に比べて雪が少ないように感じました。お彼岸を過ぎても寒い日が続き、雪がチラついたりとおかしな気候になっています。この気候が続くとこれからの夏の暑さが気になってきます。

先日、東本願寺において春の法要が勤められました。その法要で京都を訪れた際には、桜が満開となりとても綺麗な景色が見られました。自坊の境内は、四月七日頃に桜が満開となりました。四月は、新しい始まりの季節です。私は、お寺に帰ってきて六年目になりましたが、まだまだわからないことが多いです。四月という始まりの季節という中で自分があらためてどのように過ごしていくかを、桜を眺めながら考えています。

（田中　竜雄）

【表紙題字】森田　成美